

# 読書推進運動

公益社団法人  
読書推進運動協議会  
〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271  
発行人 小塚 昌弘  
編集人 片岡 伸子  
定価 60円  
会員の購読料は  
会費の中に含まれる

No.633

- ★「敬老の日読書のすすめ」掲載図書一覧(2頁)
- ★「読書週間」開催について(3頁)



## 「読書」は長寿の秘訣？

「敬老の日読書のすすめ」によせて

公益社団法人 日本図書館協会 副理事長

さかた しょうこ  
阪田 蓉子

2018年に放映されたNHKスペシャル「AIに聞いてみた どうすんのよ!? ニッポン」第3回「健康寿命」で紹介された「読書が健康によい」とのニュースに驚いた方もおられたことでしょうか。「本や雑誌を読む」ことのみが健康によいというのは大仰な表現ですが、厳密に解釈すると、健康を保つさまざまな相互作用の代表的な要素として「本や雑誌を読む」ということがあるのです。

NHKスペシャルで紹介されたこの分析結果は、日本図書館協会が2019年6月に主催したシンポジウム「超高齢社会と読書」―図書館の底力―生涯、社会に関わりながら生きていくために―において紹介された、2018年度の調査報告の一部です。この報告でさらに興味深いのは、読書愛好家が男性1位、女性3位の山梨県は長寿においても全国1位であり、また山梨県は図書館の数が日本最多という実績もあることです。

なぜ、山梨県は「長寿」なのでしょう？ AIが分析したデータは北海道から沖縄までのべ41万人の高齢者へのアンケート結果を600以上のさまざまな角度からの質問項目につき、10年以上追跡調査をして導きだした結果です。質問への回答を健康要素と不健康要素にわけ、各回答がどちらに結びついているかを調べると、読書は健康要素(自分は健康だと回答している人の回答)119件と結びつき、不健康要素(自分は不健康だと回答している人の回答)0件と

結びつき、AI分析を行ったところ、先の結果が得られたのです。健康寿命とは、心身ともに自立し、健康に生活できる期間のことで、健康寿命が長いということは、医療費や介護費を低く抑えることができるということになります。この余剰分を、暮しやすい知的・文化的な営みを支える社会の構築に繋ぐことが理想です。

高齢者には、社会に参画することに、自身の存在意義を確認したいとの願いを持つ方もおられます。図書館では、おはなし会などで、語り部として、ボランティア活動をなさっている例もみられます。

高齢化社会を迎え、日本が世界によい見本を示すことができればと願っております。



# 2020 敬老の日読書のすすめ

## 心ゆたかに生涯読書

「2020 敬老の日読書のすすめ」は、各道府県の読書推進運動協議会から寄せられた「敬老の日(高齢者)にすすめる本」の推薦書目をもとに、公益社団法人読書推進運動協議会事業委員会が24点の本を推薦図書に選定、リーフレットを製作し、全国の公共図書館や有力書店に配布します。

本年度は39の読進協から、62点の書目の推薦をいただきました。もつとも多くの推薦があったのは、阿川佐和子の『老人初心者の覚悟』と樋口恵子の『老い、どんん!』で、8つの読進協から推薦がありました。ついで、垣谷美雨の『うちの父が運転をやめません』が5つ、筒井康隆の『老人の美学』と小川糸の『ライオンのおやつ』が3つの推薦と人気を集めました。今回は80歳、90歳を超えた著者の作品に推薦が多くあり、老年をどう過ごすかについてのエッセイやパンの研究、新聞ちぎり絵の作品集、デジタルとの上手なつきあい方を解説した作品などバラエティに富んだ作品が選定されています。

事業委員会の書目選考基準は、①各出版社1点 ②複数県推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④そのほか各委員が特別に推薦した



今年にあざやかなオレンジです

い書目などを勘案して検討。本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、メールでの投票と意見交換を行い、最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。

この推薦図書を掲載したリーフレットは、14万3000部を製作。各都道府県の読書推進運動協議会や中央図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布し、活用していただきます。当協議会ホームページに、展示用ポップのデータもあります。

なお、リーフレットは、多少の予備を用意しておりますので、必要な場合は、当事務局までお問い合わせください。

03-52244-5270  
03-52244-5271  
e-mail info@dokusyo.or.jp

### 「敬老の日読書のすすめ」リーフレット掲載書目一覧

| 著者名              | 書名               | 定価    | 出版社          |
|------------------|------------------|-------|--------------|
| 村上春樹(著) 高妍(絵)    | 猫を養てる            | 一三二〇円 | 文藝春秋         |
| 小川 糸             | ライオンのおやつ         | 一六五〇円 | ポプラ社         |
| 風良 ゆう            | 流浪の月             | 一六五〇円 | 東京創元社        |
| 垣谷 美雨            | うちの父が運転をやめません    | 一七六〇円 | KADOKAWA     |
| 柳 広司             | 太平洋食堂            | 一九八〇円 | 小学館          |
| 古関 正裕            | 君はるか             | 一七六〇円 | 集英社インターナショナル |
| 阿川佐和子            | 老人初心者の覚悟         | 一四三〇円 | 中央公論新社       |
| 樋口 恵子            | 老い、どんん!          | 一四八五円 | 婦人之友社        |
| さだまさし            | やばい老人になろう        | 七七〇円  | PHP研究所       |
| 筒井 康隆            | 老人の美学            | 七七〇円  | 新潮社          |
| 外山滋比古            | 老いの練習帳           | 八六九円  | 朝日新聞出版       |
| 岸本 葉子            | ひとり老後、賢く楽しむ      | 一四八五円 | 文響社          |
| 加賀 乙彦            | わたしの芭蕉           | 一七六〇円 | 講談社          |
| 中西進(著) 鶴飼哲夫(聞き手) | 卒寿の自画像           | 一五四〇円 | 東京書籍         |
| 響田 隆史            | 100歳まで読書         | 一三二〇円 | 三笠書房         |
| 竹下 晃朗            | 98歳、石窯じーじのいのちのパン | 一七六〇円 | 筑摩書房         |
| 木村 セツ            | 90歳セツの新聞ちぎり絵     | 一九八〇円 | 里山社          |
| 若宮 正子            | 老いてこそデジタルを。      | 一一二〇円 | 1万年堂出版       |
| 志村ふくみ、志村洋子、志村昌司  | 夢もまた青し           | 二〇九〇円 | 河出書房新社       |
| 土田 昇             | 刃物たるべく           | 四九五〇円 | みすず書房        |
| 高野 光平            | 発掘! 歴史に埋もれたテレビCM | 九四六円  | 光文社          |
| 萩原さちこ(監修)        | 目指せ! 全国制覇 御城印ガイド | 一八七〇円 | 徳間書店         |
| 長澤 淨美            | キミさんのニアの庭あそびアイデア | 一九八〇円 | 農山漁村文化協会     |
| 文芸春秋編集部          | おもいでではきえないよ      | 一六五〇円 | 文研出版         |



2020・第74回

# 「読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協

議会は、恒例の秋の行事「読書週

間」を、本年も主催いたします。

例年同様のご支援とご協力をお

願い申し上げますとともに、期間

中およびその前後を通じ、自由な

発想による企画を多数お進めいた

だき、この運動の実効が上がりま

すよう、お願い申し上げます。

今年の標語は「ラストページま

で駆け抜けて」です。期間中関係

各位によつて全国的に実施される

行事は、この標語を中心に展開さ

れることとなります。

願っております。

公益社団法人 読書推進運動協

議会は、下記の4項目を「読書

週間」のテーマとして掲げてい

ます。

(1) 国民すべてに

読書をすすめる運動

「秋・読書週間に、ぜひ、一冊の

本を」が活動の原点です。「読書

週間」は、読書の楽しさを伝え、

すべての世代の人たちに本に親し

むぎつけかけをつくらせていただ

けにまいります。多くの人が書店や

図書館で一冊の本を手にとつてみ

それを動かす主役が人間である以

上、活字文化はすべてのメディア

の基礎です。とくに幼少時から青

少年時においての本とのつきあい

が重要という認識のもとに、この

運動を進めています。

(3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ(読書

会、文庫、実演グループなど)は

約1万2300あります(公益

社団法人 読書推進運動協議会

『2018年度 全国読書グループ

調査』より)。グループ読書は読

書の楽しみ、大切さを広めること

や家庭文庫、地域文庫が数多く作

られること、また、図書館や文庫

を支える地域の書店の活躍が、本

の文化を支え、ひいては日本文化

の発展に寄与することと私たちは

信じています。

2005年(平成17年)7月29

日に公布された「文字・活字文化

振興法」により、10月27日が「文

字・活字文化の日」と制定されて

います。「読書週間」とともに、「文

字・活字文化の日」もおおいに広

めていただきたいと思います。

名称「2020・第74回

## 《行事内容》

●「全国優良読書グループ表彰(第

53回)」の実施

●「野間読書推進賞(第50回)」

贈呈式開催

\*感染症対策に配慮した形での開

催・対応を検討しております

●ポスターおよび広報文書配布

(公共図書館、全国の小・中・高

等学校図書館、書店、関係出版社、

報道機関など)

●その他、道府県の読書推進運動

協議会、関係各団体の協力を得て、

各種行事実施の推進

## 記

主権「公益社団法人

読書推進運動協議会

(主要構成団体「日本書籍出

版協会、日本雑誌協会、教

科書協会、日本出版取次協

会、日本図書館協会、全国

学校図書館協議会、日本書

店商業組合連合会)

後援「文部科学省(申請中)

期間「10月27日(火)から11月9日

(月)まで

標語「ラストページまで

駆け抜けて

## 《各機関へお願いの行事内容》

\*各地域の状況に応じた範囲での

ご協力をお願い申し上げます

●公共図書館、公民館、小・中・

高等学校の学校図書館などにおい

て「読書研究会」「読書のつどい

」「作家・評論家による講演会」「図

書・雑誌展示会」(著者をかこむ会)

などの開催。「読書感想文・感想

画コンクール」の実施

●道府県の読書推進運動協議会に

よる道府県単位の「読書大会」な

どの開催

●出版社、新聞社、放送局、文化団

体などによる、被災地域、児童

養護施設、矯正施設などへ向けた

「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

「子どもの読書推進会議」2020年度第1回総会

### コロナ禍で行事中止相次ぎ 新たな読書推進の方法を模索

7月17日(金)、東京都千代田区神保町の出版クラブビルで「子どもの読書推進会議」2020年度第1回総会が開催され、2019年度の事業報告と収支決算書および2020年度の事業計画と収支予算書が説明・討議され承認された。

2019年度 事業報告では、「上野の森親子ブックフェスタ」(主催)子どもの読書推進会議/日本児童図書出版協会/出版文化産業振興財団)が5月3日~5日、東京の上野恩賜公園で開催され、好天にも恵まれて大盛況だった。また、従来8月末に行っていた後援団体および出展社向けの報告会は、報告書をメール送付すること代替したと、報告された。

もうひとつの主要事業である絵本ワールドは、2019年度は奈良県、福島県、徳島県(新規)、兵庫(新規)、三重県、新潟県の6か所で開催されたことが報告され、決算書とともに会場より承認された。

2020年度の事業計画および

収支予算書については、新型コロナウイルス感染症のため2020年の「上野の森親子ブックフェスタ」が中止となった経緯について説明があり、続いて同運営委員会から、未執行となった予算を充当して、代替行事として「上野の森親子ブックフェスタ オンライン・イベントサイト」を開設する提案がなされた。上野の森親子ブックフェスタ運営委員長である竹下晴信 子どもの読書推進会議副代表から、開設の趣旨について説明があり、小柳貴史 運営委員より企画書の説明が行われた。

このサイトは、コロナ禍の終息が不透明ななか、外出制限により学校や書店・図書館に行けないなど、不自由な状況下であっても子どもたちの要望に応え、本の楽しさ・大切さを届けるしくみを作ることが目的で提案された。クリスマス時期の開設を想定しているが、イベント終了後も各出版社・団体が活用できる児童書情報プラットフォーム化を目指す。

代替行事の開催も含めて、



「上野の森 親子ブックフェスタ」の雰囲気を活かしたイベントサイトを計画

2020年度の事業計画と収支予算書は無事承認された。

そのほかに新型コロナウイルス感染症拡大のため今年の「絵本ワールド」事業のうち、「絵本ワールドinひょうご2020」「絵本ワールドinふくしま2020」が中止、「絵本ワールドinとくしま2020」「第21回絵本ギャラリーin奈良」が延期となったことの報告があった。

また、中町英樹 会計監査の退任が報告され、後任として、樋口清一 日本書籍出版協会専務理事が選出された。等原良郎 副代表より、健康上の理由で退任の申し出があったことも報告された。最後に各参加団体から活動報告のあと、野間省伸代表が挨拶して閉会となった。

「日本絵本賞」リニューアル

### リニューアルした日本絵本賞 第25回の大賞は『くろいの』

6月25日(木)、東京都文京区の新国学校図書館協議会 会議室において、「第25回 日本絵本賞」(主催)公益社団法人 全国学校図書館協議会(全国SLA)の最終選考会が行われ、4点の受賞作が決定した。

第25回を機にリニューアルした「日本絵本賞」。

今回の選考は2018年10月~2019年12月に刊行された作品が対象となり、全国SLA選定委員会選定の1165点(うち翻訳絵本34点)から、全国SLA絵本委員会によってさらに絞り込まれた30点(うち翻訳絵本10点)が、最終選考会にかけられた。

新型コロナウイルス対策のため、最終選考会はWeb会議となり、委員5名のうち、松本猛委員(絵本・美術評論家、ちひろ美術館常任顧問)と伊藤たかみさん(作家)はモニター画面上からの参加。ほかの委員、福田美蘭さん(画家)、小林功さん(全国SLA絵本委員会委員長、埼玉県立大宮中央高等学校司書教諭)、小塚昌

弘(公益社団法人 読書推進運動協議会事務局長)とともに、三密を避けながらも、熱い議論を交わした。

選考結果は次のとおり。  
〔第25回 日本絵本大賞〕  
『くろいの』 田中清代/さく(偕成社)

〔第25回 日本絵本賞〕

『なまえのないねこ』 竹下文子/文、町田尚子/絵(小峰書店)  
『金の鳥』ブルガリアのむかしばなし/八百板洋子/文 さかたきよこ/絵(BL出版)  
『ばんつさん』 たなかひかる/作(ポプラ社)

〔翻訳絵本賞〕 該当作なし  
大賞となった『くろいの』は主人公の女の子が天井裏の不思議な世界を訪れる話。モノクロームの画面とそぎ落とされた文章が高く評価されていた受賞。  
『なまえのないねこ』は猫のキャラクターの描きわけが、『金の鳥』は絵の美しさが、『ばんつさん』はいままでの絵本にない斬新な展開が評価された。

■世界のバリアフリー児童図書展

すべての子どもたちが  
一緒に楽しめる図書を紹介

日本国際児童図書評議会(JBY)は、国際児童図書評議会(IBBY)が選定した「世界のバリアフリー児童図書2019」の巡回展示を各地で実施、また、開催機関を募集している。

世界20か国のバリアフリー児童書40点を、点字・布の絵本など「特別な形態のもの」、障がいの有無に関わらず楽しめる「誰でも楽しめるもの」、さまざまな障がいを描いた「障害についてのもの」の3分野にわけて紹介。図書にはそれぞれ、書誌と簡単な内容紹介のパネルがつく。パネルを音声で読みあげる



「世界のバリアフリー児童図書」カタログはJBBY ホームページより購入可能

「iPen」と点字版のカタログも用意され、よりバリアフリーに対応した展示セットとなった。

同展は現在、国立国会図書館国際子ども図書館(東京都)で「世界のバリアフリー児童図書展」として8月30日まで開催中(会期変更の場合あり)。その後、9月13日〜25日||名古屋市緑図書館(愛知県)、10月27日〜11月8日||静岡県立大学短期大学部(静岡県)、11月14日〜29日||太田市美術館・図書館(群馬県)、12月16日〜25日||障害者スポーツ文化センター・横浜ラポール(神奈川県)、2021年1月13日〜24日||愛荘町立愛知川びんてまりの館(滋賀県)、2月24日〜3月6日||板橋区立蓮根図書館(東京都)、3月15日〜21日||枚方市立中央図書館(大阪府)で開催される。新型コロナウイルス感染症の状況により、予定変更もありうる。

開催日程、開催希望の問い合わせなど、詳細はJBBYまで。

《JBBYホームページ》  
<https://jiby.org/>

2018年度全国読書グループ調査  
読書グループ お名前調査 その2  
〜道具部門〜

先月号よりはじまった「全国読書グループ お名前調査」第2回目は、110のことばが使われていた道具部門。へ〜内はグループ数となります。

- 1位〈14〉「ポケット」
- 2位〈58〉「クレヨン」
- 3位〈55〉「ふうせん」
- 4位〈32〉「かみふうせん」
- 5位〈31〉「とびら」
- 6位〈20〉「ゆりかご」
- 7位〈18〉「すず」
- 8位〈16〉「ともしび」
- 9位〈14〉「しおり」
- 10位〈13〉「おもちゃ箱」
- 次点〈12〉「エプロン」

2位以下を大きく引き離し、ダントツの1位は「ポケット」。全体でもかなり上位に入りそうです。「ポケット」は略称の「ぼつけ」(9)もあり、あわせると153となります。おはなしでポケットをいっぱいにして子どもたちのもとへ、子どもたちの心のポケットにおは

読書で新しい世界を開きたい、そんな思いが伝わってくるのが、5位の「とびら」。開くイメージが重なる「窓」(8)より、多くのグループに使われています。

なしをたくさん入れてもらいたい、そんな思いが伝わってきます。2位は「クレヨン」。子どもになじみのお絵かき道具であること、クレヨンを主人公にした絵本が多くあることなどが理由と思われる。また、5位に「パレット」が入っていますので、多彩な色にならぶ様子が「子どもにいろいろなおはなしを」との思いにあうでしょう。色とりどりを連想させることばでは、このほかにも「色えんぴつ」(6)、「ブーケ」(花束)ともに4、「パステル」(3)もありました。

わずかの差で3位は「ふうせん」。4位の「かみふうせん」とあわせて集計するか迷いましたが、素材の感触や遊び方の違いなどを考慮し、別々にしました。あわせて集計するようになりました。夢とおはなしでパンパンにふくらんだ風船、そんなイメージから名づけたグループも多いのでは? ふわふわ飛んでいく風船に、読書の世界や想像力の広がりを重ねたグループもありそうです。

かかれた人気は、8グループが使用の「ろうそく」。「おはなしのろうそく」(7)、「キャンドル」(2)とあわせる17グループとなります。「おはなしのろうそく」はろうそくそのものではなく、東京子ども図書館発行の「おはなしのろうそく」を示していると判断したので、この結果となりました。

### 優良読書グループの歩み (8)

2019年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。  
(順不同)

#### ひだまりの会

代表者 佐藤真理子

山形県山形市

〈推薦〉  
山形県読書推進運動協議会

ひだまりの会は、2001年に山形市立図書館のボランティア団体「小荷駄のみどりから…」の施設にて図書館に来ることができない高齢者に本をお届けしたいね、という声からはじまりました。最初は本を貸し出しすること、高齢者と一緒に本を読みあう活動を並行して行っていました。本を借りる方が次第に減り、要望もなくなってきたので、読みあい活動に主力をおくようになりました。その間、会員がたつたふたりだけになり、たいへんな時期もありました。現在は、協力会員を含めて8名おります。代表者は初代から5人目です。  
訪問先の施設では、30分から1

時間で、絵本、紙芝居、歌、簡単な体操、脳トレクイズなど、会員それぞれの得意な出しものを組みあわせて実行しています。バラエティにとんだプログラム構成で、どなかひとつでも高齢者が興味を持てるように努めています。歌い、声を出して読み、クイズに答えている間に、さまざま面白いお話がわきあがります。ときには思いもつかないダジャレが飛び出したりして、私たちのほうが笑わせられることもあり、じつに楽しい時間になります。なかにははかばかしく反応できない方もいますが、はじめのうちどんなよりしていた目が輝きだすと、ほんとうにうれしくなります。

終了後は施設の職員からアドバイスや感想をいただき、訪問の質をより高めていきたいと思っています。  
また、数年前から実施している、山形南高校OB合唱団のメンバーとコラボしての男声合唱は、大好

評をいただいております。

「小荷駄のみどりから…」の二員として、子どもたちのための読み聞かせも年に数回おこなっており、高齢者とは違ったコミュニケーションも楽しんでいます。  
しかし、メンバーの高齢化や体調不良などもあり、そのつど活動できる人を手配するのがむずかしくなっています。そのために常時会員を募集しています。子どもたちへの読み聞かせと違い、ハードルが高いと感じられるのかもしれませんが、じつは高齢者には子どもたち向けにある制約がほとんどなく、自由ですつと楽なのです。

いま、たくさんの方々に、私たちの活動を知ってほしいと願っています。これを機会に多くの方に「ひだまりの会」を認知していただければ幸いです。

#### おはなしたまご

代表者 宮嶋 千春

長野県東御市

〈推薦〉  
長野県読書推進運動協議会

おはなしたまごは、2003年4月に誕生しました。今年で16年になります。当時、長野県図書館

大会が東部町であり、その事務局として東部町図書館（現在は東御市立図書館）に在籍していた私が図書館大会の事務をさせていた関係で、図書館長からおはなし子ども会と一緒にやってほしいという依頼をいただいたことがきっかけです。当時は図書館職員の方と別のボランティアグループひとつが担っていましたが、そこに加わっておはなし会をスタートすることになりました。そのころは親子文庫の活動と、子育て支援センターでのボランティア活動で、小学校や支援センターのおはなし会を行っていて、その仲間といまのグループを立ちあげました。たまごからおはなしがつぎつぎと生まれるというイメージでこの名前をつけました。

おもな活動として図書館での「おはなし子ども会(年3回担当)」と保育園の「誕生会でのおはなし会(東御市全公立保育園、上田市保育園2園)」を行っています。絵本はもちろんのこと、毎回テーマを決めてそのテーマにそって、エプロンシアター、パネルシアター、テーブルシアターなどを織りまぜながら、おはなしの世界へ子どもたちを導き、さらに語り(ストーリーテリング)では、自由に

メンバーの持ちよるアイディアで多彩なプログラムを提供



想像して楽しめるように内容を考え進めていくプログラムにしています。手づくりしたおはなしの小道具も、いまではたくさんになりました。メンバーそれぞれの引き出しからアイディアを持ちよっておはなし会を構成して読み語りをしていきます。また、最後には作って遊べる工作も取り入れていきます。

最近のおはなし会は低年齢化が進み、おはなしの内容を考えるのに苦労しています。また、親のおはなし離れも気になっています。私たちは、絵本も語りもそして子どもたちのことも大好きです。子どもたちに絵本やおはなしの楽しさを知ってほしいという強い気

持ちを持ち、つねに向上心を忘れず、かといつて無理はせず、ときには食事やお茶を楽しんでいきます。子どもたちが目を輝かせ、おはなしを聞く姿を見るのが、私たちのいちばんの喜びです。

私たちおはなしまごの活動が「出合いの場」となり、一人ひとりの子どもたちが心豊かでたくましく育つてくれることを願っています。

### てぶくろ

代表者 東中 洋子

和歌山県海草郡紀美野町  
和歌山県公共図書館協会  
〈推薦〉

よみきかせサークル「てぶくろ」は、ウクライナの民話『てぶくろ』のように、仲間がつぎつぎ入ってきてくれるよう願って名づけました。

30年前、「エプロンおじさん」として県下の学校を回り、よみきかせの活動をされていた別院清先生のよみきかせに感動した小中学校の先生たちが、読みの技術を学ぼうと結成したのがはじまりです。

先生の指導のもと、公民館で月

1回の例会で、読み聞かせ、朗読、語りなど練習を重ねてきました。公民館での文化祭、ボランティア活動、ほかの読み聞かせサークルと合同の語り寄席などにも参加してきました。

子どもたちによい本を届けたい、授業のなかに読み聞かせや朗読を組みいれたり、朝読などの取組をしたり、本の好きな子、おはなしの好きな子をいっぱいになりたいという思いで、勉強会に参加してきました。

いまでは、保育園や小中学校の先生方のメンバーも退職し、先生以外の一般の方も参加してくれるようになりました。孫に読んであげたり、ボランティアで学校や地域の施設を回つたりしてくれているメンバーもいて、現在は6名で活動しています。

サークルの活動は、一昨年は木下順二作『絵巻 平家物語「俊寛」』の群読に挑戦。はじめての古典に苦勞しましたが、女性だけでなく男性会員さん2名の声に支えられ、思い出に残る発表となりました。

今年、山本真理子さんの『紀州ばなし』より『冬の月』を群読しました。ほかのサークルとの合同発表会でしたが、昨年11月にな

くなつた指導者の別院清先生への追悼の作品となつてしまいました。先生が突然逝去され、一時はこのグループの活動も中止しようと考えましたが、舞台朗読や語りの活動をされ、清先生とともに歩んでこられてきた奥さま、別院丁子先生が引き継いでくださり、今後も練習に励もうと決意を新たにしています。

故 清先生の育ててこられた読み聞かせサークルは、それぞれの郡市で先生の熱い思いを受け継ぎ、活動されています。てぶくろも子どもたちや地域のみなさんに喜んでもらえるよう、地道に、和気あいあいと勉強していきたいと思つています。

### 南種子町おはなし子ども会

代表者 小山 圭子

鹿児島県熊毛郡南種子町  
鹿児島県読書推進運動協議会  
〈推薦〉

私たちのグループは、親子のふれあいや本のよさを知ってほしいという目的で、1994年に結成され、現在14人で活動しています。活動は、町立図書館で行う「おはなしの時間」と、依頼のあつた

小学校での「おはなし宅配便」が中心です。

また、教育委員会が主催する「図書劇場」では、会場準備や参加者の誘導、片づけまでのサポートも行っています。

「おはなしの時間」は、月1回実施しており、季節の絵本や紙芝居、手遊びやエプロンシアターなど、飽きさせないプログラムづくりを心がけています。

「おはなし宅配便」は、依頼のあつた小学校へ出向いて行っています。小規模校が多いため、全学年を対象に行うことが多く、本選びに気を配り、「種子島の民話」の読み語りをかみ取り入れていきます。

また、パネルシアターや大型絵本など、全児童が見やすい大きさ、低学年にもわかりやすいプログラム構成を心がけています。

ふたつの活動の際には、「おはなしのろうそく」を灯し、雰囲気づくりも気をつけています。

ろうそくは、読み聞かせ開始に火を灯し、プログラム終了後、参加してくれた子どもにも火を消してもらいます。「おはなしの時間」では、誕生月の子どもが代表で消し、「宅配便」では6年生に代表でお願ひしています。いまでは恒例となり、それを楽しみにしている子どももいるようです。

そして、ただ火を消すのではなく、「火を消すとき、願ひごとをすると願ひがかなうといわれているんだよ」と伝えると、一生懸命に手をあわせ祈る姿をよく見ま

す。活動後に、「子どもたちから「また来てね」と、笑顔でいわれると、つぎの活動への活力と励みになります。

これからも、子どもたちから楽しみにしてもらえようなグループを目指し、自分たちも多くの笑顔・驚き・好奇心との出合いを楽しみに、活動を続けていきたいと思ひます。



低学年から高学年までが楽しめるおはなしを

